教訓私説

五之巻

目録

第一 内湯之部 六甘五分 羊羹之部

下ヶ[illegible]寺 [illegible]酒屋

一至喰され[illegible]ん不[illegible]り 掛[illegible]

[illegible]

第二　淡義傍の色ちがひ猫額や乃信濃
出女は風俗あとをあらく乃ん
第五の神奈男のちあの風彩う
ありがくぞふたまふ一衣

第三　男の色ふ毒て同ぬ人ね嫁の器量自慢
古常見利も天窓とふさ西めは方乃
よわうの男のん色とうちれね絵帽子
被ふ乃ん風俗が茶花乃見舞

一　円満の和ぶ長の甚ん乃ゆ年寿大盃

釈尊領国を樹ゆ。法をすくむ。老い立ち生ぐ乃ゆ。ふい人間り
生活くとあり。紙陀太子未利ま人あい。法をすう春しあ
ふと。法文ふ怪よあれ。でんたん乃ど。法春ぐりぐ乃人まで
法利ふふ生活とおつちりさ。ふ。何とんぷらと。法が遠ふ。
どれと。光が。法ふいふ人を乃く。法を。の。ぶ。ぐ。一ぐの。法ふ。ぐむ
ぐりぐで。金。乃ぐ。ぐ。大切ふ。ふ。ぐ。ぐ。水よ。願ぐ。ぐ。一。ぐ
ぐりが。ぐ。ぐ。ぐ

一つのことその日はあのぬやうふ拾ものしたがふ侍野のあふみとなすと。
久六日向のあふ分と陸也。女房とをるべきはれたらんしたがやるも
いづくにぬしつきをうがはるべしやこれより流を川竹の面徒ぬしけて
月れば名の裏にきくのふをくあるとそしるも毎うきぞこのやうれへ
光さつまつうとぬ嫁ぐしすの宮記侍りてなづまもせまも縁の無まと
あくで。鏡といふ奥の山よりまとまぜくやうにし内徒のうけ知る
ものく侍りね拾と切といふ中く一期一夕のうきあるべし親方まれ拾
姉女房。やりまい勿論所の年者すであ用まり今方屋のきれりる
用ふぜあるとそりそづさぶやつきりとさびしうなるべし。華底浮みで
いるね上ハと面月にくね拾を切くやちべしと独者合の後宮のふうり
出入の和歌をよびよ也。侍るよ母入気体物衣陽とせんじ松葉の石づきと。
きくと入氣のつみと者あんをあらふぞく。用ふうして小箱のとをあ

どうり切くうどんの極よまつ。そのくに毛とそひぐ者紙へくく
きにとありかどうして拾天和のの名号ういたりけてあつられの
命じやとりかたその鼻ぬ下こそ心ぬ者拾のるとと毎日
出くへいくやちお傷悲も。女房ぬ日みを用るもけりをけれいどりませね
らく者人のくい口りとるもけるどんあらんて月ねうみとこめてあく
中用みをつそらぐ人かもかるるの。そのうさまくもなく祝ち
仕事也のお菓とそまつるて。拝果小花のぐうあうう身体とつぐと
ヨあるまできるぞう。為好注所ぐをくるにも。家小有る記物
梅樹松風とあらい風雅一倫の拾枝者。まうり人金銀ぐう。金元
あまくと建つげーなづあんぷう独神ぬも拾りしと。花の新りすと
あづう。出口の柳い身体と吾用く地神と思ぬ。冥宗の芝居者色人金銀
とらへぐり。祝宜出家ぬでのくとびうぬ。なかぬるにくんとくど用くう

あてがちぶよ
氷

[illegible]くとく茶とのまゝ○ハ医者よを付さんもてど。[illegible]ゆゞんなく
[illegible]ぐくロハかゝつゞる紙の金のあれども。所人ハ宮さ極づなるたべ代り
[illegible]ぐくすまんなりと。歯ハ四つ[illegible]と[illegible]ハ代を
[illegible]くたゝ人六十人こ十人居宮ゝしても[illegible]きひのゝハ松ゝと。方年れ
[illegible]くゝ人四一[illegible]尾常ゝとて張[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝねゝ[illegible]常の風十三ノ秋[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

酢せう油く位ゐしぼ油りなどくいろすいあり、しもちぐしけの塩ゆ、ふたぐんの保はあく保りりと名付ぶたりら大豆氏杉めりちをこ二万
とりりを七大さらい主ふくぐーきく抜く出寿絵の小型よのやく押へ
まりさぶあいの仕りまをぷ。もえのあへのと。ぶれあおりげでちゃ仕食膳
せーよよ。菓子ふりりし保くとに豆もいさうれたるつけーろ比き。
たくへ行ぐ。ぷよといぐけぐて。今ぐあっくの多すだ。けとちぐ。て
サァいやとちてい口のちぐ口の角ぷよいなっく根ーりく明と考ーぐ。
はよ酒い左の鼻り変ーて。ぶ汁のんでさみくんもちぐめ。ぷ。ぷ。ニ
知くのろ。みけ。ふ味ぐみ。ぐりとちたぐけく喰さげ。し。ぷる。ち。ぷく
ろーさ。ぷへ。ぐへのちれる彩ちとあげやとちぐ。ぶ。楽ぷ。中ぐ。麻
よ。ぷと考ーぷ。大をけ口ぶれ。紅ぶ。ぷ。ぐ。保りりの口楽奥とやちろーれ。
菓子ぶりりたなられちさくやちれとぷ。楽ぐ。ぶ。ぐ。ぷ。ぐ。ぷ。ぐ。ぷ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そうこうしていやちこうの所の敷のあるこそ者ひ口ひろく面白ひと弘仁
古風の和歌多。金堂と申み高野山の麓ざいしき。古法眼が水入の野の竜と
ふうの色。弘樂寺が耕作の景。敷多屋ふ高野山のふもと。庭ハ相阿弥の金と
ほくう。孫こちらに高野山の寺。本堂に龍少と居のごとくちぐわ。紙四
のかたくさびみ。夜とすれ。唐風の池を家あめて月をたゞの名を
ふ。重れあり。ひのまくあてさめ。ていとぶ。ときのてさんまけ。ものどと
ちしぶ。ぶれけ。ぎーさめて弁あの口とりくさ。ふうのこうけはこうが
こそこうりぐせべされがこひのかまけけーさのかりこうめ。ねの四(隠)
書くこりふく今でれんふうこのに所と色くこ栗色りの大角さ
ゆりて白う六十同こうめこ十六こう。赤紫よくこ。ぎまんぶ。ふ。ぶ徒あこれ
こそーあつぐぶとふぐだーのこ。ふ。ふ。ぶ。ふ。ぶ。ふ。ぶ

まうげやすもひぞうし。一日うのあるひ、くらのぶ、ひ、ぐらしいてたて
とあげ、ぐまひり、くべあづさゆらでも宮くゆ中といはでいと
さうつ。あおあらし。後ろもおりのりき。今月れいの世のえみさすが、さまの乃
累して。後世のあと。公基とおもてさ。弟のたろうそてあられ。やうりと弟
のとそうそうあく不和のよるけくえれ人くとおくうそうひめ

二 信義信の色好い強慈悲の信心

丹後の名西左衛門尉といふ人。孝心ある人の。食をしきあるえ
浪して。遠国の中と。行けるそや。妻でて。ちうをえめ。女房と。ちす
ぬづりのと。名して。豊心丹とそ。ふ。その心。ア。ふ。西大寺といふ。ふ。
元もろうとむ。強慈悲と。後ぶ。し。信義の人。とと。ふ。みそ。し。れ
あるを。ありく。お女。あまと。ぬく。この。ぬや。和ぬや。そて。ぬと。ぬ。ぐ。し。
内後へ。ぬや。内後。めく。女。れ。砂。く。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

[illegible]へ[illegible]こゆるくさ[illegible]ゆいへ[illegible]人のまきがしこ[illegible]
ゆ[illegible]あつてんぐ[illegible]こつてさ合があ[illegible]ぐきもちまひ。[illegible]寺より十七町
西へまいれば。西の橋とゝ[illegible]くぐつやに西やとゝ[illegible]
分のひとうるさ[illegible]ぐたりまい[illegible]ぐ清村の三[illegible]へ道[illegible]
て。ぐ[illegible]ぐ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]りまやこゝとすゝ[illegible]
そみ[illegible]村へまうこ[illegible]
下男の私物西[illegible]
ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

池あげの用ことことくうくうしてあげの用ことことくうくうしてあげの用ことことくうくうしてあ

を新でのり金のぬとの縫のたくりぬ。あるてうれ赤のこすちのねと
つくれもはんしてたくうたく赤と豆くろりぬよく古ゆ高麗に代と
いづ〜ぬ世ろの村屋けと角ろぬ内流の抜入りぬつさりと略して結ゆ
をまさ〜〜にとろとぬまく紙おお布てちりみわどにんげ。優す年
みもたくねぬよぬまりの格がよ京紙とねあげぬまおいいひ〜ぬへ物り
紙と保くくとあ〜隠町に古屋衆と姑う中く高麗くと屋く法ぬへ
新居とあ〜ぬ世のわろ結とうつく。結おくく有酒人よりゆの抜人て。乞鼻
ふすまどもぬ心紙にちんの物ぬまゆくぬ豊へ方編紙と数ぬみつくく格格
ぐうつく紙よ巻ゆく。強糸ぐ足勇で。安れ法義一色りとゆ行へ紙ぬと
のゆ〜ちつく字名い代く日蓮ちの結ぐりくぐろとたのゆるまぐぐも
屋ぬへ業にちく格ぬす糸いちく。結ぬ乳屋ぐようれぬ紙ちんゆりり
ゆくぐ紙えぐようれぬ字百ぐ遠つく。いまぐ字ちしまゆるきぬあ

よりハ百姓信高図と仕掛てぬ〜ぬよりの身ぬと紙のゆぞいろ
もみ供の格よいちんちぐりて。ゼ十者よで法解もぬ。紙ぐ〜ゆぬまぞ身
を此ぬ〜て。面世にあるぬ者の格ぐ。紙ちんちの格ぬ京のちゆふハ
ちく〜ぬど。己ぐつ足で身体とねぐ西ちさ自傷ゆ〜。内結ゆす紙ぐ
考ぐちく〜ぐ。ぐう〜。ある村紙ぐちくおゆの紙ちぐ屋へ屋申結ゆ格れ。
ぬ〜〜ぬぐしちくぬぐちぬふ〜ぬとうふのねりちてて。ふ陸格ぬちぐんぐくの
者あ金を長泥も碑かどのんぐ。ぬもふの明〜。ゆ月大坂のぐうぐ〜ぬ長
ゆ方の地と格ぐちりぬんぐ〜ぐ。ぬ格ぐさく京の格れそん紙格しぬぐら
ぐれぐも紙ぬ心ぬ者ぬちんちぬ月ぬ紙ちんぐ者ぬいろくとすくちぐれぐ。
ゆすぬ世ぬのんぐ〜ぬちぐれぐ。夫ハ〜ぬのちゆのあけゆまぐゆ所のめぐ〜ぎ
ぐちけれ〜ぐ夫ゆ格てまちつぐ結の立りすぐまれぬ〜ぐれにあ〜ぬ。
ぬりと結紙ハ月ぬけ少ぐぐれぐちちぬ結で月ぬれぬぬ〜ぬれ

まさるとあつかふ敏をさせいくばかそハさ法なこんおろて義がござる。行くで
ハ侍ぞなきまーこんと新ぶんさのこゆるとしてゆつういまでしでござるね。
ちり鈴ハ爲帽子指紙ぞおりも衣ぞどうくみ屋くかさまもいん
ちりでござらんどころでたれやくとハ。戦ぶり鈴角力ととろくみろこ。
いるる見物ちやもまゑいこんもとんとけるこするかんぶ面りハ新ちかく
社鈴の法とハせぶたきこを方と新物くんこけるるでござるこでー新よ
いるるんいづまもすりうとさ海ーぷーつまもを首屋でいちひこさんを
さふ咄ーと紙乃よりーぷーしまかどこさのひ生ゑすひでりまさねこんで。
こ鈴やの狐にがこのこでなーゆ山まーぷを咄ゆコしびと安こ
うまんゆこゆの高いも働よござるとこんとくこまうひこうこまうこ
法ーーぷ本辻の本ぞがみ百ゑでこ通法ちれくこさどうひでんでなぞ
今ことあーてね女庵もあるこ松のねこ春ハの法ひ庵の姫出物ちの付

の。忍ぶの事にこゆづくーて男の肌とよみやこーきゆとあーびる中
型こ味線とーく言さりーが。絵りの男ぶのぶまんくぷ仔付もハ例を
こるーこれこゆ人侍業の姫くとうけ。家ちかるけどくふーくと物こて
ゆ人ゑふハ脇を形ーハ奥のも情ゆ也行くど。ゑるのねびひ山今庭
ようこハ脇下さ角くわかの。法にもいよ年こて今こゑ百ゑ面神のろう
ちこれ。ハこゑ山花ハより言ゆ生せこれ。ーが。ぶ行ハ遠くゆ漫こて。ひこ法
姫くくをづさこたりまーふぶまの法ハ十八九ととくんこの英ーさ小形く
小町とくくもあれゆどゆんあるまいと海ふくーね高法の家ちのぶりう
ひぶりの目がの痛ーこくくぶ目とーうあらぶく新ハ一ーふく
の角ーさーおぶーとのせくく咄ゆ出びいづれもふつとこめくここ法を
柘どせーゆくもあーかりさ。法ぶきのトさるくここ。ゆハーこ本も
あーバ猫こつけくこ言ゆこ中ハ。如れ蕎車乃ゆ一ゑりハ行こ

なくおもくあるまに。たとあれば貴賤にてそまつさ吾ちと化粧用
に付まされば。姫が一生氣ち樂をあ人樂へして有と彩られど。初かの付
かつ結構をゆづりを安してさすがひ所人の世ち 紀ちるくらしへ
ちつぶ味噌塩菜の今家いつよりあつ。後利さ人ちつぶ茶ぶ食
なると西瓜瓜ぶり。油ちとくへ蘭幅にそ出とられさけてひの
とりは今がをちぶめとあつがるくるわちれば迷も紀美てうつぶ世
帯のあくあねすと。ほも実へ後しまねのし摩居を遠に西ね
内ふくお医者房が檀家のちぶんあるいは達まのはがあつべ出てちされと
いで。先姫ハ二度ぶ西あい姫ぐりんるひめあぶ。立ふろびさへ
がちつひでいさのぶくといへ。中利美にかつく居ることまひ
あぶ石の紀仁が先音ぶと一歩に西ちつりあて一年に六十ち利佛
きあつらいよ。一生居るのまて立てもちすちへのと同美ぶるも

ちかりに。おほぶやの紀仁ふちのと実くあり長のあるくと後ふ。
紀ちさ石へひ。高ちのお実の姫ふ吾ふ分りつひさつ。きのいりてちされと紀
るんばあかぶ生活の姫よあちあ人ちるくらべ先実にいやこハりさんはいが
同ぶくへ吾用ちなされ。ま吾ハよりけれども。まるはちるわど居ちいさ
用のるひまぞうけ言がそんしてあまに居ちの西りお美に相わも
ぶさればあもるつかぶ。郷南氣多と西ちに人遠ひぶちるくべ。ちり
紀美ぶくこぶされとの紀をぽるもあ西く生活へいひ入まつぶれ分解
とり。舞ぶのく家紀とりのと居西ちぶるねども。氣の表ハ法紀家の
より。ちハどふもお後ぶありぶくふとの西ちすれ紀に居ちより西ちて。色紀ちり
より西ちすと家ちるぶさつ。つちく生ちあつねすあつべ。今生ちる紀分。
いちるまで色と紀ひちんぶ法せしも吾ハして後ちちるあぶど。紀仲
の表と紀ちく。居世を安樂世はれ。紀子の表ハ。舎利く後

なりとも嫁女になれべかまひまるねとざりとちんやひなりいとびん
他ゑとすわこんでひざ高に男も陰ぐらねく成の日中の日と
長く嫁とりの日と吉日と定め。祝儀寄合と組へ結納の祝儀も組ひ。
こうひ婚礼のあ〜かどめ。長ながも一世一度の大儀と。喜ぶ。盤面ひ
ゆ末のあ〜ひろずとびん銭ぐいこめつき女さたづあ〜ひ祝の構造
を張り出てこぐくもあ〜かりき嫁ゑの手紙とよぐる度よして
奥人かきこ。嫁の内ぐるもとひ〜くざ〜きく来れ〜風俗ぐる
に祝の。酒肴こつる亀ゑよりひと祝ひ。祝ゑ子ゑの嫁くにゑ孫乃
さ人とこ〜ぐき。仲人い見ゑ〜い長ぐ。ゆ長ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
よ〜〜くい新ドゆるとあいさろすれべ。祝儀を麻ぐ長のひざとい〜い
い〜へ。ゆ〜に夫婦となる〜ゑも。二世ゑ。こ世の縁でいざ〜ねべ。たぐひ
かりひぐ〜くり〜ねべ。ゆまゑね。それおまくくハ素ぐ悔でぐざる。合後

ゆ〜くそりの長寿〜さみ同ゑの〜ひぐ〜くもきれと。ゆ〜ても無ね
祝祝嫁人の他ゑい乳ゆ。ゆ祝男みく。ゑ祝嫁ゑとゆ〜ひ〜ちゑ向へ
ゆ〜ひ長ゑ長ゑ〜でんぐさ〜ねし〜いべ。ゆゆ〜ぐ。悔ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
り〜ぐ〜ひ〜ぐ〜でんぐさ〜ねえ祝ゆ女ゑ祝ゑ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
に〜ゆ〜くい〜ぐ。ゆ〜〜〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

てさうと松浦言とゝ[illegible]くいつぐ。嫁[illegible]
ひとびとこゝろなくようけ[illegible]
ひとゝせばさうこゝの[illegible]
いつくもさう。まこの　なれどひ[illegible]
始しあべ[illegible]でもちさう[illegible]
さう[illegible]。[illegible]
[illegible]
[illegible]

大石内の方へ知らせたる。あの方あの今ぞ知れて。婦女と女房にもうす
なりしとうく　遠く　過れと気づきて　脇を見れば　俗こへ　ちろ
元へ出加のもれ　出　仏　あひ　ものの　蜂の　紙わ　ぐ　の　目　ごろ　ふ　と　ひ　ら　へ
右の目へ仲人　ぱ　ふ　ろ　ひ　琴　こ　味　せ　ん　ぐ　く　て　さ　れ　こ　と　ひ　ら　へ　振　き　も　の　ろ
ぐ　び　ぱ　い　た　く　よ　仲　人　は　す　ら　と　ト　せ　ど　で　ち　ろ　ち　ち　ら　ち　ち　ら　の　ち　ど　今　ま
和　や　角　と　れ　て　す　む　ち　で　ぱ　ち　ち　ち　ち　ち　で　ち　ち　ち　ち　ち

あるにつけて、親仁とりでつて、侍ごろをしたがへ、
きのどくがり、親仁のゆるしをとりあつかひ、娘の婿妻にもちあつ
ぬことなりがたくあるこの山ゆのなかにて、
あれいろくとりさばいごろ、ゆくさきを指のさきにあつまりての婚礼
清のちとせと長の百年よいくとあり人命のすゑかるに入の
長松不自由ゆゑ新とりもうあさてに好ふまをごけ、さるおにに
いわがくるもむりでもかしあ世飛りの物をゆゑ人ゆゑ祈ふぐらかあ
おりゆゑ祝方と悔を祈入りて考さん銘合りでもねば男が命よ
名高もあれがよのゆゑ内かくそのあくでれが儲ゆゑ考さあ
そうかくへ百年まのこらくかんぞくが考くまらね新の大
らべとあるもりぞうしゆゑのあるゆゑ女子共の男人あるのうにゆゑの人
めもあよりくとあくゆゑ新ぞくかりくへさらくで複乃

ひまよりのぞけば、督やらーきめひとりもかんどんあれね意
姫が掛えに参のせくかーあのーあるまぐらにゆくあうりさ
ひとりくいまでもかーせ界のもゆひんまろくて相新ものもの
すーくひーのの意とうくあーて更君ものもうくにうくーた
ごーやもくねどりのとうすくーそりかねーりくんりつくーて里
かーつくあり姫をきひさかりよおぞるゆゆさんぞとあれべーて
のとかーかりかまえゆゆ間がさあるねさるようぞろじまもあれ
ぐんなきりさ男ねぞおりまるいぞーりーにぞんゆんまべるあろ
じゃぞーりとあるぞーりもあつすかつもちぞんるゆちと間がりへと
かつもちりまーくーたぞんいすんとかりーりーぞりまるとかさんゆ
がりかりりぞりかーしあるのんぞゆーりるかりとちぞーく
いちりりゆかさんるぞーそかまえと出まゆいちありなさんまーくとい

弓矢八まんそのゝうゝ内侍のかゝうゝゝ源のごゝとかりゝく
あつゝゝ神ゝゝとゝゝ御ゝくゝのけゝゝゝ

南東之錦櫻	五冊	教訓私信育	五冊	奔田宮侯物語	五冊	遠澤浮錦鑑	五冊	風流御伽草子	五冊	風流東鑑	五冊	頼朝二代鎌倉記	五冊	西海太平記	五冊	中將姫拙宗遊	五冊
新撰孫子櫻	五冊	貫根崎情鶴	五冊	今昔諸國噺	五冊	物部守屋歸輦	五冊	都鳥妻恋笛	五冊	那智御山之伝説	五冊	毛護初冠女手始	五冊	高砂大鴻臺	五冊	花色紙袋詞	五冊
風流川中鴻	五冊	菜花金琴合	五冊	頼政現在鶯	五冊	御伽太平記	五冊	當世司形容	近日出来 五冊	教訓伝乐形氣	近日出来 五冊	當世蕊者形氣	近日出来 五冊	浮世学者形氣	近日出来 五冊	南東美男日記	五冊

今川一睡記	五冊	風流庭訓往來	五冊	風流高名頼政	五冊	於國奇舞妓	五冊	風流東大全	五冊	奥州軍記	五冊	長生伏木隠	五冊	萬福富貴在	五冊	今昔九重櫻	五冊
風流軍配團	五冊	五光暮盤忠信	五冊	歌行脚懐硯	五冊	清明白狐王	五冊	當流實録高名松	五冊	日本傾性始	五冊	當世信玄記	五冊	百姓盛衰記	五冊	商人世帯業	五冊
世間豪者形氣	五冊	時勢富貴形氣	近日出来 五冊	世間顕員形氣	近日出来 五冊	今昔自慢形氣	近日出来 五冊	石橋五郎実録浪	五冊	忠孝吉野門松	五冊	丹波高仁世間鑑	五冊	武経双紙巴	五冊	大盛祇園柳	五冊

数情蓬莱山　五冊
陽炎日高川　五冊
富士川流藤野橋　五冊
桜花九誕生記　五冊
出世樫流苔語　五冊
古朝會誓山　五冊
名玉女錦織　五冊
楠二代壮士　五冊
御伽平家　五冊

女曽我兄弟鏡　五冊
女將門七人化粧　五冊
風流粲花形　五冊
花競清水詣　五冊
前髪豆二面鏡　五冊
女非人綴錦　五冊
記錄曽我　五冊
真盛曲輪錦　五冊
教訓廓引治　近日出来　五冊

新都俵系圖　五冊
野狐狩盃　五冊
敦盛源平桃　五冊
大門裏大友宮　五冊
彩色歌根模　五冊
盛久側柏葉　五冊
十二小町曦岩長　五冊
若女化粧櫻　五冊
義貞勢軍記　五冊

當世徽背物　近日出来　五冊
起揚小法師　近日出来　五冊

明和四丁亥年
正月
板元
大坂心斎橋順慶町角　升屋太藏
京寺町通押小路下ル　金屋治助
賣所
江戸大伝馬町　鱗形屋孫兵衛